

C-45 乳児服設計に関する基礎的研究(第1報)乳児の成長について

お茶の水女大家政 柳沢澄子 ○天野節子 石井万津子

青山学院女短大 磯谷藤枝 実践女大家政 飯塚幸子

目的 従来、乳児服寸法に関する身体計測的研究は平松らの研究以外にはみあたらない。そこで、私どもは一般の健康な乳児を対象として身体計測を行い、乳児服設計のための一連の基礎的研究を行った。まず、第1報では急速な成長を遂げる乳児の成長様相を把握することを目的とする。

方法 資料は、昭和48年1~12月の1年間に都内某市立病院の育児相談の場において計測して得た1~12か月の乳児、男児727名、女児589名合計1316名である。研究項目は身体各部位15項目であり、性別・月令別に横断的統計処理を行い、乳児の平均的成長様相を検討した。

結果 1)乳児期においては各項目とも急速な成長を遂げるが、特に5か月以前の成長はめざましい。2)長径項目の成長は、乳児期全般にわたり身長よりも上肢長、上肢長よりも下肢長の方が急速である。従って上肢と下肢の差は月令が進むにつれて増大する。また軀幹部の伸長は下肢に比べて緩慢である。3)幅径項目の成長は、身長の成長に先行し、肩峰幅と最大股幅の差は月令が進むにつれてやや増大する。4)周径項目は、長径項目に比べて乳児期初期の成長が急速である。また軀幹部の周径の大きさの順位は、1~2か月では胸囲>腹囲>腰囲であり、3か月以降は胸囲>腰囲>腹囲となる。5)体重は、男児については12か月児は1か月児の約2.2倍、女児は約2.1倍となり、全項目中最も成長速度が大である。6)性差については、ほとんどの項目および月令において男児が優れるが、大腿囲は女児がやや優れる。